

# 現場発見

Site Discovery

## 緑と共生する音楽の拠点が 二つの街をつなぐ

（仮称）東京音楽大学新キャンパス計画

東京・中目黒駅周辺から代官山駅にかけて、二つの街をつなぐ場所に建設中の東京音楽大学新キャンパスが躯体工事から仕上げ段階を迎えている。学内を貫通する道と広場をつくり、敷地に沿った旧鎌倉街道の緑を整備するなど、回遊性が高く、地域に開かれた計画の実現が待たれる。施工に携わる戸田建設(株)の平岡佳樹作業所長は、現場のコミュニケーションを高めながら、建物内部の遮音・音響性能と意匠デザインに力が注がれたホールや教室、外観などを丁寧、確実、美しくつくり込むために、若い力をまとめ上げている。



### 街と緑と共生する事業提案

東京・中目黒駅の周辺は商店街と個性的な店舗が多く、近くを流れる目黒川沿いは、春は桜のスポットとして大いに賑わう。また、閑静な住宅地を挟んで北側の代官山駅のエリアは、ヒルサイドテラスを中心とする洗練されたアートや文化、食の発信地である。

施工に携わる戸田建設(株)東京支店の平岡佳樹所長は「おしゃやかな二つの街をつなぐ、文化的なポテンシャルが高い場所でのこのプロジェクト

トは進んでいます」と朗らかに話してくれた。

学校法人東京音楽大学はかねてから池袋キャンパスの再整備を検討していたが、既存建物の老朽化や必要面積の不足などからその方針を変えた。新キャンパス設立に向けて、戸田建設の開発計画部が用地提案を進めていた途上で出会ったのが、目黒区と東京都（以下、区と都）の所有地で実施された「上目黒一丁目地区プロジェクト」だった。民間事業者による魅力的なまちづくりを誘導する公募型プロポーザル方式で、敷地は区と都が旧国鉄清算事業団から取得した上目黒宿舍跡地、合計八、五〇〇平方メートル。区と都は「中目黒と代官山を結ぶ美しいまちづくり」というコンセプトと、豊かな緑と屋根を生かし、楽しく文化的雰囲気の施設を整備して、二つの街の魅力を生かすという方針のもと事業者を公募した。同校は(株)日建設計、戸田建設とプロジェクトチームを組んで応募。その事業提案が高く評価され、二〇一五年六月に事業者に決定した。

新キャンパスは「まちと協奏するみどりの音楽大学」をコンセプトとし、地域に開放される学内通路や四つの広場、北側の緑道「みどりの鎌倉街道」を整備するなど地域貢献度の高い施設として設計されている。

「文化を発信する音大ができることは、街の皆さんからこのエリアにふさわしいというイメージを持っていただいています。当初は近隣か



キャンパスの東側に位置する六角形のホールの躯体工事が進行している。舞台から客席の背後まで長手方向に約35m。客席数は422席。写真は舞台側を見ているが、両サイドの壁面の角度が開いている。2階から4階までの3層吹抜けで、これから屋根が架けられていく。





1階のレッスン室が連続する廊下。63室のレッスン室の壁はフラッターエコーを生じさせないように、壁面に7度の角度をつけている。各室の壁下地も真っすぐではなく、ジグザグのラインを描いている。



上/ホールの内観パース。壁面、天井ともに高度な音響性能と美しい造形性を兼ね備えた意匠デザイン。ステージと客席の一体感、包み込むような音環境をつくる。(提供：戸田建設(株))

右/レッスン室の内観パース。理想的な音響性能とするため、壁の一面を7度変化させ、天井も傾斜させる空間形状に。内装に吸音と反射パネルを用いる。(提供：戸田建設(株))



ら工事中の音への心配事が寄せられたこともありましたが、事業主の方々が丁寧に説明を重ね、信頼関係が築かれました。工事に携わる私たちは、その思いを職員全員で共有し、誠意をもって仕事に臨んでいます」と平岡所長。「区と都からも、街の方々からもこのプロジェクトがたいへん期待されていることを強く感じています」と力を込める。

### 手作りのように、人の力で仕上げる現場

三月中頃、現場は躯体工事の最終段階にかかっていた。敷地はほぼ三角形の傾斜地で、一〇センチほどの高低差がある。前面の西郷山通り(中目黒側)に面して鉄筋コンクリート造四階建ての躯体が立ち上がっているが、一、二階の後方は地中に埋まっているかたちだ。二階レベルの中央に「オーケストラ広場」が設けられ、エントランスから代官山方面に貫通する「音楽のみち」とともに、地域の人たちにも開放されるという。全体に回遊性の高い計画がなされ、平面形状もかなり複雑である。

傾斜地であることに加え、西郷山通りしか搬入道路として使えないので、非常に工事動線の確保が難しい敷地である。更に特徴的な遮音性能や音響性能を高めたレッスン室と音楽ホール、特に音楽ホールは非常に複雑な形状で、施工にかなり手間がかかりそうだ。

「それだけにやりがいの大きい工事です。鉄

### 工事概要

発注者：学校法人東京音楽大学 理事長 鈴木勝利  
 設計・監理：株式会社日建設計、戸田建設株式会社  
 施工者：戸田建設株式会社  
 工期：2016年10月～2019年1月  
 構造・階数：RC造(一部SRC造) 地上3階地下1階、塔屋1階  
 敷地面積：8,538.00㎡  
 延床面積：17,681.45㎡  
 ユニット数：ホール約400席、レッスン室81室、練習室62室

ほぼ三角形の敷地の底辺部はエントランスが設けられる西郷山通り。左の斜辺は北側道路(旧鎌倉街道)で、目切坂(めきりざか)と呼ばれる。キャンパス内を抜ける2つの道と4つの広場を設け、回遊性の高い計画によって、中目黒(写真下方)と代官山(上方)をつなぐ。(提供：戸田建設(株))





## 現場発見

Site Discovery



屋上では配筋とコンクリート打設が進行中。写真右手は代官山、左手は恵比寿の方向。周辺は都心では貴重な森に包まれている。

筋コンクリート造は手作りの感覚で行う施工法なので、一フロアを二〇工区ほどに分け、地道に確実に順序を踏みながら進めています」と平岡所長は話し、レッスンス室が六三室並んでいる一階を案内してくれた。各室の内壁が平行に向き合う空間だと残響音やフラッターエコーと呼ばれる音響障害が起きるため、室内の壁に七度の角度がつけられているという。それがデザインに取り込まれ、廊下はジグザグなラインを描きながら伸びている。また床下には、遮音、防振のためにゴムやグラスウールを充填する懐が設けられ、これらは各階の様々な形状、大きさの音響空間につくり込まれていく。

六角形のホール空間にも驚かされる。六月に着手されるという内部仕上げは音響性能とデザイン両方を追求しており、木質の吸音・反射

を設けて立体的、かつ杉板の木目が転写された柔らかな表情が美しい。「打設のときに型枠の凹凸部分の底までコンクリートを回さないときれいに仕上がらないですから、手応えは十分といった感じです」。様々な複雑さをもつ建築を施工するにあたり、現場のコミュニケーションが何より大切だと平岡所長は考えている。「この現場は一年生から八年生ぐらいの若い職員、若い技術者が集まって頑張っています。経験不足もあるなかで、現場でどれだけ経験を積んでいけるか、そして職長さんたちが持っている経験と技術力を発揮してもらおうためにも、情報の共有と、生のコミュニケーションは欠かせません。特に鉄筋コンクリート造の在来工法



上/平岡所長を囲む職長の面々。搬入、搬出動線を確保するために後施工にした「オーケストラの森」のヤードで。

下/所長をはじめとする管理職と職員、職長、職人のみんなが、緊張感を持ちつつも距離感を縮め、コミュニケーションしやすくなるように「ありがとうプロジェクト」を行っている。みんながそれぞれ、誰かに何かをありがとうと書いたカードを掲示。ありがとうという気持ちを表すことで、親近感が増していく。



2階ホールの楽屋とレッスンス室。床に段差があるのは、遮音、防振のためにグラスウールなどを充填してから仕上げるため。

材が美しく波打つような設計だ。「段状に壁面の凹凸が繰り返されるので、足場もそれに合わせなければ施工できません。BIMを使って検討を進めています。天井も音響性能が検討されたいので、仕上げ材が造形的にデザインされていますが、内部には空調や照明、舞台設備にカメラなど、いろいろな設備が入ってきますから、施工計画が非常に複雑になってきます」と平岡所長。大学に集まる音楽のフロアが満足する日本一のホールを完成させたいという。

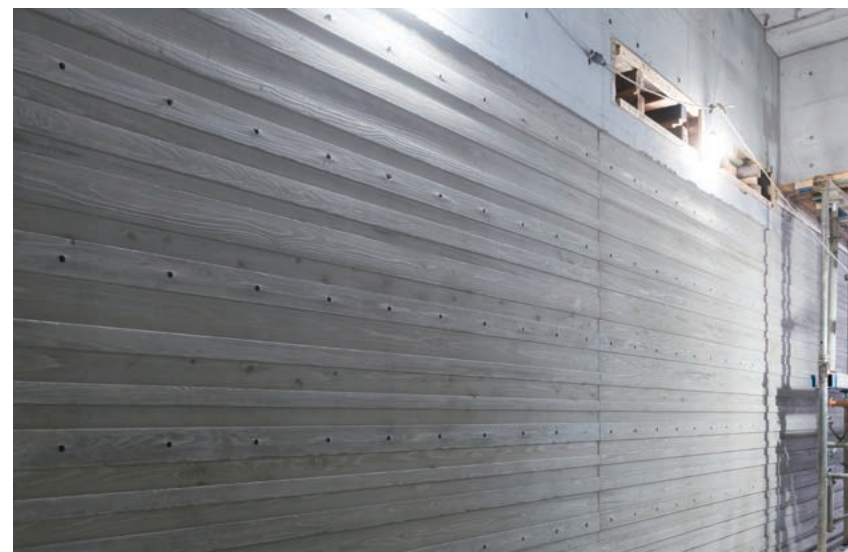
### アナログなコミュニケーションで 気持ちを通じる情報共有を

外部仕上げも見どころの一つ。特にファサードの一階は「杉板本実凹凸型枠」を用いたコンクリート打放し仕上げだ。幅が三タイプのリップ

は人の力が非常に大切になってきます。今、タブレットなどの情報ツールが進んでいますが、そのほかに、職員、職長さんたちがアナログな無線機を付けて歩いて、みんなで直接話すという方法で情報を共有しています。どんな問題がどこで起きたかリアルにわかり、解決策もすぐに伝えやすいなど、気持ちが通じやすいところもいいですね」。緊張感を保ちつつ、現場をリードする平岡所長の言葉からは、仕事と若い人たちへの愛情が伝わってくるようだ。

これから完成に向かい、建物の姿が見えてきたとき、街の人たち、関係者にも喜んでもらえたらうれしいと平岡所長は言う。それは現場で働く若手にとっても大きな喜びになるのだろう。

右/外壁仕上げのモックアップ。杉板型枠のリップ幅とピッチの8パターン、2階以上の外壁の左官仕上げ4パターンを試作した。左/エントランスロビー内部(ガレリア)の壁面。正面1階の外壁から内部へと連続する壁面は、杉板本実凹凸型枠によるコンクリート打放し仕上げ。内部は大きな面を誘発目地を入れずに仕上げるため、ひび割れが抑制される極低収縮コンクリート(戸田建設(株)開発工法)を施工。これが初の現場施工となった。



## Q この現場で発見したことは何ですか?

A 現場事務所の打ち合わせエリアで、定期的に若手職員と職長さんたちが集まって、工区別の打ち合わせを行っています。若手職員には自分たちで考え、職長さんたちとコミュニケーションをとって問題を解決してほしいと思っていますが、話し合いがうまく調整できたりできなかったり、問題が増えてきたりして、行き詰まっていることもあるんです。私の席から

もその様子がわかるので、そんなときにチョコレートを出すことにしてみました。みんな、頭を使っているからか、甘いチョコレートがたくさん食べるんですよ。すると場が和んで、また元気が出てくる。私たち上司がやれば解決しやすいんですが、一生懸命頑張れ、という気持ちを込めてチョコレート。あんなにみんなのハートをつかむとは思いませんでした。大きな発見でした。



戸田建設株式会社  
東京支店  
(仮称)東京音楽大学新キャンパス計画  
作業所長

**平岡佳樹**  
Yoshiki Hiraoka